

報道関係者各位

PRESS RELEASE 2015年10月6日(10月7日改訂)

No. 2015-031-P.1

第15回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展日本館展示 「en(縁):beyond—SHARING」キュレーター:山名 善之氏

※ 10月6日に配信した際に出展作家のお名前に一部誤りがございましたので、お詫びして訂正いたします。
ご迷惑をおかけいたしますが、本リリースを修正版としてご利用いただきますようお願いいたします。

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は、2016年5月28日(土)から11月27日(日)にかけてイタリア・ヴェネチアにて開催される「第15回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」の日本館展示を主催します。日本館のテーマは「en(縁):beyond—SHARING(エン:ビヨンド — シェアリング)」。東京理科大学理工学部建築学科教授の山名善之氏をキュレーターに、高度経済成長が終焉を迎え、3.11(東日本大震災)を経験した今日の日本において、新しい価値を求めて活動する若い世代の建築実践を4つのテーマから紹介いたします。

■第15回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展 日本館 概要

【タイトル】	en(縁):beyond—SHARING (エン:ビヨンド — シェアリング)
【主催/コミッショナー】	独立行政法人国際交流基金
【キュレーター】	山名 善之(やまな・よしゆき) 東京理科大学理工学部建築学科教授
【制作委員会】	菱川 勢一(ひしかわ・せいいち) クリエイティブディレクター 映像作家/写真家 内野 正樹(うちの・まさき) 編集者 (他2名 *現在調整中)
【特別助成】	公益財団法人石橋財団
【出展作家】	mnm 常山未央(つねやま・みお)/オンデザイン 西田司(にしだ・おさむ)/中川エリカ(なかがわ・えりか)/成瀬・猪熊建築設計事務所 猪熊 純(いのくま・じゅん)、成瀬友梨(なるせ・ゆり)/仲建築設計スタジオ 仲俊治(なか・としはる)、宇野悠里(うの・ゆうり)/能作アーキテクト 能作文徳(のうさく・ふみのり)、能作淳平(のうさく・じゅんぺい)/miCo. 今村水紀(いまむら・みずき)、篠原勲(しのはら・いさお)/レビ設計室 中川純(なかがわ・じゅん)/増田信吾+大坪克亘 増田信吾(ますだ・しんご)、大坪克亘(おおつぼ・かつひさ)/青木弘司建築設計事務所 青木弘司(あおき・こうじ)/403architecture [dajiba] 辻琢磨(つじ・たくま)、橋本健史(はしもと・たけし)、彌田徹(やだ・とおる)/BUS 伊藤暁(いとう・さとる)、坂東幸輔(ばんどう・こうすけ)、須磨一清(すま・いっせい)/ドット・アーキテクト 家成俊勝(いえなり・としかつ)、赤代武志(しゃくしろ・たけし)、土井 亘(どい・わたる) (順不同)
【会場デザイン】	teco 金野千恵(こんの・ちえ)、アリソン理恵(ありそん・りえ)

第15回 ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 全体概要

【会期】	2016年5月28日(土)~11月27日(日)
【会場】	ジャルディーニ地区(Giardini di Castello)、アルセナーレ地区(Arsenale)など
【総合ディレクター】	Alejandro Aravena(アレハンドロ・アラヴェナ)
【総合テーマ】	REPORTING FROM THE FRONT
【公式 Web サイト】	http://www.labiennale.org

●主催者・本事業に関するお問い合わせ: 国際交流基金 文化事業部 事業第2チーム (担当:原田、田崎、大川)

Tel: 03-5369-6063 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail:venezia@jpf.go.jp

●広報用画像・取材に関するお問い合わせ: 平昌子 (TAIRAMASAKO PRESS OFFICE)

Tel: 090-1149-1111 / Fax: 03-3468-8367 / E-mail:venezia@jpf.go.jp

ステートメント

若年層を中心に失業が慢性化し、格差や貧困の度合いが日々昂進している今日の日本において、戦後の「高度経済成長」はもはや遠い過去の歴史的事象のようなものとなってしまった。近代日本の「経済成長」とともに創りだされた建築作品のいくつかは世界に誇れるものであったが、輝ける日本の「近代建築の変化100年」は、前回のヴェネチア・ビエンナーレ日本館において「現代建築の倉」に収蔵され、「高度経済成長」をピークに生み出された建築作品の数々はすでに歴史家の対象となっている。

情報環境を劇的に変化させたインターネットの普及など、時代の指標となる事象はさまざまにあるが、競争原理をその核にすえた新自由主義は、戦争やテロ、放射性物質による環境汚染などと異なり、すぐ目の前にある脅威とはとらえにくいものの、いまや社会の隅々にまで浸透してその屋台骨を深く蝕んでいる。とはいえ、「進歩」といった大きな物語、メタ物語が社会のエンジンとして駆動したモダンの時代、そして高度成長期とは異なり、こうした現状、動向に抗して目標となる未来の姿を描いてそこに向かっていくこともできず、われわれの社会には閉塞感のようなものが暗く、重く覆いかぶさっている。

そしてさらに3.11以降の喪失感が加わったなかで、日本の社会は大きな転換期を迎えており、近代国家の描いた「都市における幸せな家族像」が崩壊する一方で、「SHARING」（価値観やライフスタイルなどを共有）する新たな共同体が出現しはじめている。このような時代にわれわれの建築はどのようにつくられているのか。そして、どこへ向かおうとしているのか——われわれがいま注目するのは、その多くが、モダン・ムーヴメントのプロパガンダ装置であった建築雑誌などを華やかに飾るようにも、また、近代国家を形成してきたこれまでの建築の枠組みのなかでそれらを大きく変えるような力を秘めているようにも——少なくとも表面上においては——見えない建築群である。それは、今までの社会のあり方、それぞれのさまざまな関係性、すなわち本展のテーマである「縁」を変えることに重点を置いているからと考えられる。

本展では、大きな物語やなんらかの旗印のもと、モダン・ムーヴメントに見られたような運動体を形成することなく、直面した状況課題に対して、それぞれ個々に戦われているその戦いの多様な様相を見てみようと思う。困難な状況を超えて生き延びる(survive)ためのこの最前線(front)での戦いは、まだ胎動を始めたばかりのものが多いかもしれないが、社会変革のベースをつくっていく、そんな潜在可能性をもっている。

山名善之

●主催者・本事業に関するお問い合わせ：国際交流基金 文化事業部 事業第2チーム（担当：原田、田崎、大川）

Tel: 03-5369-6063 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail: venezia@jpf.go.jp

●広報用画像・取材に関するお問い合わせ：平昌子（TAIRAMASAKO PRESS OFFICE）

Tel: 090-1149-1111 / Fax: 03-3468-8367 / E-mail: venezia@jpf.go.jp